

平成27年度 第4期 第2・3・4回「耕人塾」

回	日時	主活動	活動内容	担当者等
2	7月	【試し活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・1班：7/4(土)7:00 石巻駅～立町ゴミ拾い ・2班：7/12(日)6:00 石巻駅～立町ゴミ拾い ・3班：7/5(日)8:00 石巻駅～立町ゴミ拾い ・4班：7/5(日)13:00 開成団地周辺ゴミ拾い ・5班：7/5(日)9:00 駅前北通りゴミ拾い 	各班の主担当 中心
3	7/18 (土)	【試し活動中間発表】	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動「試し実践活動」を行っての成果と課題 ・班交流活動、班別活動、全体学習 ・宿泊研修について ※石巻専修大学2号館 2階2206教室	
4	8月	【班ごとの実践活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・1班：8/1(土)・8/8(土) 7:00 石巻駅周辺ゴミ拾い ・2班：8/11(火)10:00 石巻駅構内トイレ掃除 ・3班：8/8(土)7:30 石巻駅周辺ゴミ拾い ・4班：8/2(日)13:00 開成団地周辺ゴミ拾い ・5班：8/2(日)8:00 立町～萬画館ゴミ拾い 8/8(土) 3班と合同	各班の主担当 中心に自主活 動

[テーマ] 世界に誇れる石巻地域にしよう！

～世界に誇れる『あいさつ・清掃・ゴミ拾い』を目指して～

[使用したテキスト]

- ・『耕人』H27 2. pdf (塾長から塾生へのメッセージ：第2号)

【第2・3・4回耕人塾活動内容の概要】

- ・今年度の第1回開催日を、昨年度より一か月遅らせ、6月20日(土)に行った。昨年度は、「世界に誇れる石巻をつくろう」と班ごとのテーマを設定し活動計画を立てたが、今年度は、「世界に誇れる石巻地域にしよう」と言うテーマのもとで、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」と言う3つの切り込み口(実践活動)を通してテーマに迫ることにした。
- ・まず、実際に活動をする。活動する中から、見えてくる課題を探ろう。これが、『お試し実践活動(第2回耕人塾)』である。
- ・第3回耕人塾では、『お試し実践活動』を行っての成果と課題を班ごとに交流する。何気なく歩いているだけでは見えないもの、見過ごしてしまっていた状況が交流される。「ゴミの種類」「ゴミの捨てられている場所の特徴」など、実際に活動したからこそ分かる事実が豊かになる。現状をそのまま容認するのではなく、どんな環境を作り上げていくことが、ゴミ撲滅につながっていくのかと言う態度や発想を生み出していく。
- ・川開きをはさんでの『班ごとの実践活動(第4回耕人塾)』は、場所も内容も深化を遂げている。「同じ場所を行って、比較した班」「範囲と時間を広げた班」「内容を変えた班」などがある。石巻駅構内トイレ掃除などは、塾生の発想を基にした主担当の関係部署への調整・交渉によって実現している。

※これらの一連の活動を班ごとの記録を通して、見取っていただきたい。

『試し実践活動』の報告（1班）

- 日時：7月4日（土） 7：00～
8：00
- 場所：石巻駅～立町商店街～石巻駅
- 内容：ごみ拾い
- 参加人数：塾生4名、保護者・家族4名
担当2名
- 現状と考察



石巻駅前で目立ったごみの種類は、たばこの吸殻である。石巻の玄関口としては悲惨な状態であった。ごみが落ちている場所の特徴としては、「見えにくい所」だった。草の生えている所や建物と建物の間等である。また、お酒やコーヒーの空き缶も多く、ごみを捨てているのは大半が大人であることも考察できた。

道路の隅に目を向けてみると、たばこの吸殻が車の風を受けて1箇所に集まっていたり排水溝の中に入っていて、専門業者でないと清掃できない状態であったりしていた。今後、石巻駅前～立町商店街で「ごみ拾い」に焦点を当てて活動していくとすれば、行政や専門業者と連携していくことも視野に入れなければならないと感じた。加えて、塾生が「石巻駅のごみ拾いサポーター」的な存在として貢献するというのも、取組のひとつとして考えるのもおもしろいかもしれない。



←ごみを捨てようという意思はあるものの、ごみ箱が小さくてあふれている状態。

立町商店街を回り、再び石巻駅に到着した際、数十分前にきれいにしたばかりの場所にごみが落ちていた。塾生の活動を何らかの形で発信し、市民の意識改革をしていくことの必要性も感じた。

『試し実践活動』の成果と課題（1班）

○成果

- ・実際に現地視察を行ったことで、落ちているごみの種類や場所を実感できた。
- ・ごみ拾いをしている姿を地域の方に見せることができた。
- ・今後の活動の見通し（自分たちがすべきこととしたいこと）を立てる一助となった。
- ・イメージ（先入観）と現実のギャップを体感できた。

○課題

<班活動を行っていく上での課題>

- ・班別活動は、どうしても単発の活動になりがちであるため、「継続」ということがキーワードになってくる。この課題をどのように克服していくかが、活動の前段階として考えていかなければならない。
- ・班活動を発信源として、周りの人にどのようにアピールしてごみ拾い、ごみを捨てない街づくりを具現化していくか考える必要がある。ごみ拾い活動を行った、その先の動きを具体的にイメージして取り組む必要がある。

<1班が考える立町商店街の課題>

- ・ごみの種類としてはたばこの吸い殻が圧倒的に多かった。続いて空き缶である。中には酒類も少なくなかった。また、捨てられている場所については、「人目につかない場所」をいう特徴が見られた。捨てる側も、「悪いと分かっているもついで」「見つからなければいい」という意識の低さを感じる結果となった。
- ・石巻駅から立町商店街に向かってごみ拾いをし、再び駅に到着した際、数十分前にきれいにした場所にごみが落ちていた。石巻地域に住んでいる人、石巻地域を利用する人の意識改革が必要である。

『今後の実践活動』について（1班）

○課題解決のための手だて

- ・班活動を発信源として「ごみを捨てる人の減少」「ごみを拾う人の増加」を目標とした。立町商店街の中で、エリアを限定して定点観測的にごみ拾いを行う。ごみの種類を把握するとともに、変容と特徴を分析する。調査した結果をポスター等の方法を活用して地域の人にアピールすることで商店街の変化をねらっていく。

第1回：7月25日（土）7：00～8：00 【立町ふれあい商店街集合～指定エリア】

第2回：8月 1日（土）7：00～8：00 【立町ふれあい商店街集合～指定エリア】

第3回：8月 8日（土）7：00～8：00 【立町ふれあい商店街集合～指定エリア】

○ごみ拾い実践報告

1班ではお試し実践活動後、立町商店街のごみの様子を定点観測的に調査する活動計画を立てた。目的はごみの様子を調査する中で、美しい街にするための課題とアプローチの仕方を模索し、提言を考えることである。また、実践後、耕人塾生を発信源として、何らかの手だてを講じ「ごみを捨てる人を減らす」「ごみを拾う人を増やす」ことも目的としている。3回の調査の結果を以下に報告する。

【第1回】

日時：7月25日（土） 7：00～

場所：ふれあい商店街～立町通り

結果 → 雨天のため中止

【第2回】

日時：8月1日（土） 7：00～

場所：ふれあい商店街～立町通り

参加人数：塾生4名 保護者・家族3名 指導委員2名

結果



石巻川開き祭り前夜祭後ということもあり、焼き鳥の串、缶などのごみが目立った。また、捨てられている場所も広範囲に広がっており、人目を気にせずといった感じを受けた。祭りということで、ごみを捨てた人は地元の人以外も考えられるため、「捨てない」雰囲気啓発する手だての必要性を感じる結果となった。



ごみを捨てる場所を明確にすると設置場所の工夫も考えていかなければならない。



約1時間の活動で左のような成果を得た。お試し実践活動でも感じたことであるが、ごみの捨てられ方を見ると、捨てる人の意識改革を目指していかなければ、この現状を改善していくことは難しいということが分かった。

耕人塾での取組として、自分たちがごみを拾うという行動をするだけでは不十分かもしれない。周りの人を巻き込むような取組を模索していかなければならない。この点については、8月の宿泊での議題として考えていきたい。

【第3回】

日時：8月8日（土） 7：00～

場所：ふれあい商店街～立町通り

結果

塾生が集まらず、定点観測のみの活動となった。商店街の様子としてはきれいで、目立ったごみは見られなかった。しかし、人の手の届かない場所にはまだあり、「ごみ拾い」のレベルではどうしようもない状況である。徹底的に美しい街にするということを考えると、専門機関や行政にもアプローチしていかなければならないということを考えさせられた。また、石巻川開き祭り後の清掃活動では、ボランティア団体の方々の力は絶大なものがあつた。この清掃活動を地元住民の手で行うことが望ましい姿であると考えた。



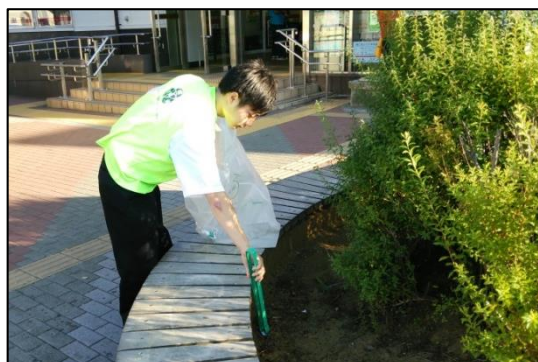
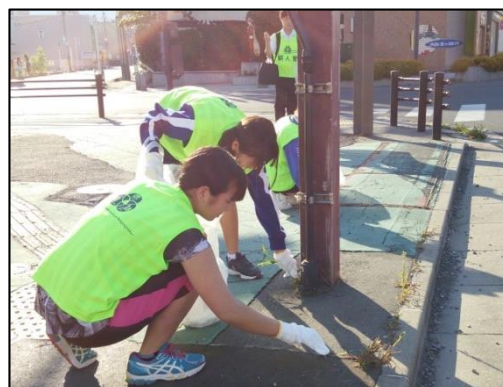
文責：石巻市立鹿妻小学校 教諭 須田 佑介

『試し実践活動』の報告（2班）

2班は7月12日（日）の朝6時～7時の時間帯に、石巻駅前から市役所にかけて清掃活動を行いました。当日はありがたいことに、2班の塾生の他、塾生のお友達や保護者の方々にもご協力いただくことができました。また、塾長先生はじめ耕人塾の先生方、学生も合わせると20名にもなり、1時間という限られた時間でしたが、効率的で有意義な清掃活動を行うことができました。ご協力に感謝いたします。

他の班で先にごみ拾いをしてもらっていたこともあり、ごみはあまり落ちていないように見えました。そこで、草取りを中心に行うことにしました。しかし、実際に活動してみると、空き缶だけでも45ℓ入りごみ袋が1袋いっぱいになるほどのごみがあり、思いのほか、多くのごみが捨てられていることに気づきました。中には壊れた傘やバドミントンのラケットなどもありました。草は7袋も取れました。塾生は暑い中、汗を流しながら一生懸命に草取りをしていました。また、和気あいあいとした雰囲気の中で塾生同士、会話しながら楽しく活動していました。

今回の試しの実践活動で塾生が何かしら感じたことを第2回耕人塾で話し合い、次なる実践活動につなげていきたいと思えます。



平成27年度 第3回耕人塾の話し合いから

お試し実践活動の成果と課題（2班）

<成果>

- 地域のために少しでも貢献でき、すがすがしい気持ちになった。
- いつも見ている道でも、見方を変えてみることで、知らなかったことに気づくことができた。
- 塾生以外の方々も巻き込むような形で、ご協力いただくことができた。

<課題>

- ごみを拾う人がいても捨てる人の方が多く、少しぐらいなら捨ててもいいだろう、見えないところなら捨ててもいいだろうという気持ちを無くす働きかけが必要である。
- ごみを捨てさせないような環境づくりが必要である。（よりきれいにし、ごみを捨てるににくい雰囲気にする。ごみ箱を設置したり、その設置場所について知らせる方法を考えたりするなど。）

平成27年度 第4回耕人塾

『今後の実践活動』について（1班）

活動内容

石巻駅のトイレの清掃

（駅のトイレが汚れていて入りたくもないという話題から、駅のトイレをきれいにし、気持ちよく利用できるようにしたいと考えた。）

ねらい

夏祭りやお盆で多くの人が石巻を訪れる今だからこそ特に、石巻駅のトイレをきれいにし、利用者に石巻のよい印象を持ってもらえるようにする。

日時

未定（8月上旬）

※清掃業者が入って駅トイレの清掃を行っているのかどうかなど、石巻駅に確認し、できれば清掃業者の方（プロの方）にご指導いただきながら、トイレ清掃を体験する活動にしたい。

H27 耕人塾 2班 実践活動の報告（第2回）

～トイレ掃除の体験活動を通して～

1. ねらい

- “世界に誇れる石巻”を目指し、まずは身近な環境に目を向けてできる奉仕活動として前回の草取りにつづき、石巻駅のトイレ掃除を行う。
- 清掃のプロである清掃業者の方に教えていただきながら、“当たり前のことを素晴らしく”というフレーズのように、清掃に限らず物事をよりよく行うことの大切さに気付かせ、自ら実践していく態度を養う。
- 石巻駅トイレの利用者が多くなるお盆前のこの時期に清掃することで、“石巻はきれいな町”であることをアピールしていく。

2. 日時・場所

平成27年8月11日(火) 10:00～11:00 『JR石巻駅構内トイレ』

3. 活動の記録

参加生徒は塾生や塾生の友人等を含め、8名となった。

当日は石巻駅の清掃業者であるJRテクノサービスの石川さんと清掃員の黒須さんにお越しいただき、清掃の仕方を丁寧にご指導いただきながら活動することができた。

塾生たちは専用の雑巾やモップを渡されると、積極的に便器を磨いたり、床を拭いたりしていた。

特に印象に残ったのは、プロの方々が手鏡を使って、便器の裏側等のしゃがんでも見えないような部分の汚れを確認していたことである。このように見えない部分にまで気を配る姿勢は、清掃だけでなく、いろいろな場面において大切なことであると感じた。

河北新報の方にも取材に来ていただき、インタビューされた塾生は、「学校のトイレ掃除とは雰囲気が違う。」「滅多に体験することのできない活動ができてよかった。」等と答えていた。

トイレ掃除が終わり、余った時間でホームのベンチや漫画のキャラクターのオブジェの汚れを雑巾で拭き取る体験活動をさせていただいた。

4. 活動を通して感じたこと

プロの方に教えていただきながらの活動は、これまでの活動に比べ、塾生たちの表情はより真剣で、感想発表でも感じたことを進んで発表していたことから、とても有意義なものだったと思う。しかし、塾生の友人たちを除く塾生のみでの参加人数は3名しかいなかったため、折角の機会がもったいなかった。この点を改善するには、もっと早く企画し、塾生のスケジュール調整をしやすくしたりする等の工夫が必要であると感じた。



文責：東松島市立大曲小学校 教諭 菅井 秀成